



「お手伝い」の大切さ

もうすぐ夏休み、子ども達のご家庭で過ごす時間が多くなります。お手伝いから学ぶことは意外に多いようです。こんな記事を見つけたのでご紹介します。

年齢の小さい子ほど、親の仕事に興味をもって、お手伝いをしたがるお子さんが多いものです。お手伝いの中には、子どもが「やってみたい」「まねしたい」「楽しそうだ」と感じるものがたくさんあるのでしょう。また、自分のやったことを褒めてもらったり、家族に感謝されることは誇らしいものです。

こういったことの積み重ねは**自己有能感を感じる大切な体験**となります。さらに、お手伝いの中には**お子さんの発達を促すことがたくさんある**ので、毎日の生活の中にお手伝いの時間を取り入れて、できることを増やしましょう。また、決まったお手伝いを毎日行えるようになることは、将来仕事に就いて勤勉に働くという練習にもつながります。

子育てサポートブック 発達相談センターかながわ NPOフトゥーロより 一部抜粋

例えば、朝新聞を取ってくる、食卓に箸を並べるなど責任ある仕事を与えるようにすると、子どもも家族の中で、「**主役感覚**」を体得して、「してもらっている」のではなく、『自分もしている』感覚が育ち、これが**責任感につながり、自立心を高める**のだそうです。

また、運動が苦手な体を動かす機会が少なかったり、不器用だったり、ものの形は理解しているのにいざ作るとなるとどのように手を動かしたらよいかわからないというお子さんがいます。筆圧が弱く文字がきれいに書けないお子さんもいます。先日臨床心理士さんからこんな話を伺いました。「**指先をうまく使うためには、体の中心のバランスをうまくとり、緊張感を取り除き、目と手の運動を協応させ、集中して初めて良い姿勢でしっかりした文字が書けるようになる。**」というような内容でした。体の発達がいろいろな発達に良い影響を与えるということを改めて感じました。



例えば小さなゴミ拾いには**指先**を使います。窓ふきやお風呂掃除は上下左右に**手**を動かします。ていねいに掃除機をかけるには**全身**を使います。買い物の荷物や古新聞を運ぶなど重いものを運ぶには**腹筋や背筋**をバランスよく使うことが大切です。ぞうきんをしっかり絞り、両手で床を拭くにも大人が思っている以上に難しいところもあるようです。そしてきれいに仕事をするためには**目と手の協応**が大切です。

長い夏休み家族の一員としてたくさんお手伝いをさせてみてはいかがでしょう。最初は上手にできないところもあるかと思いますが、おうちの方には、ぜひ必要なときには教え、励まし、見守っていただければと思います。



----- きりとり -----
〈メッセージ〉

「ふれあい」No.3